令和５年度 公立小松大学入学者選抜試験
学校推薦型選抜（一般推薦）試験問題

課 題 作 文

【国際文化交流学部】
国際文化交流学科

（注意事項）

1　問題用紙は指示があるまで開いてはいけません。
2　問題用紙は本文１ページです。答案用紙は１枚です。
3　答案用紙の所定欄に受験番号を記入しなさい。
4　答えはすべて答案用紙の指定のところに，縦書きで記入しなさい。
5　アルファベット文字や数字は，１マスに１字で記入しなさい。
6　試験終了後，問題用紙と下書き用紙は持ち帰ってください。

次の文章を読み、あなたが考える「「食」のなす力」について、800字以内で書きなさい。

「食べること」は、単に胃袋を満たすことではない。戦争など「非日常」を生かされる人にとって、「食」という日常のいとなみが、人間としての理性と尊厳を取り戻す手がかりとなる――。

そう教えてくれるのは、セルビアの首都ベオグラード在住の詩人・翻訳家の山崎佳代子さんが4年前に出した著作「パンと野いちご」（勁草書房）である。

様々な民族や宗派が交錯し、対立や戦火が絶えないバルカン半島で、故郷や家を追われた人びとが何を食べ、考えていたのかを山崎さんは聞き書きした。

改めて気づかされるのは、平和がいかにもろく、希少かということだ。昨日までふつうの暮らしをしていたのが、今日は着の身着のままで逃げている。戦争の災禍は突然やってくるものなのだ。

友達と思っていた人が友達でなく、親しくなかった人が仲間だと知る。そこに民族、宗派の別はない。問われているのは個々の人間のありようであって、「〇〇人だから」などと集団でくくる危うさもあぶり出す。

そして「食」のなす力である。食材が細っていくなか、家庭で受け継がれてきた料理を工夫をこらして作り、家族や友人と分かち合い、客人をもてなす。

食べること、料理することとは？　この問いに、彼らは答える。

「感情。人と人との出会い」「思い出のこと。料理とは、甦（よみがえ）り」「正常な気持ちを生みだしてくれる、異常なことが起こっていることに対する抵抗」

料理し、食べることで家族を守り、他者とかかわろうとする「人間としての気高さ、崇高さに、逆にこちらの方が打たれました」。山崎さんはそう話す。

（出典：沢村　亙「食でつながり 尊厳をつむぐ」朝日新聞2022年1月23日）